



畫本西遊全傳 四編八



特
遠
2500
40-38



特選
2500
40-38

繪本西遊記四編卷之八

池

寇員外喜待高僧

唐長老不貪富貴

斯之三藏師徒の輩亦半月餘を經て一座の城地に入大路を添て
急ぎに往處小路の二邊ふ一個の樓門有門の上ふ一面の大扉を搦て萬
僧不阻と寫しつる三藏是と看て點頭嘆じて曰く西方の佛地
果而這般の善因ありと師徒四個女時門前に彷徨居たり處
ふ忽ち裡より一個の蒼頭門を出四個を看て大いふ驚き慌得
開く一入主公門前ふ異形する僧四個来りつと報られ是
を聞て一個の老者口ふ念佛を唱て杖を携へて門外へ立出三藏
師徒を見て礼を施し却て他們が異形を怖れを万望の長老輩
我家小入て少時休息しぬと云々ほど三藏師徒各礼し老



繪本西遊記四編卷之八



寂員外

三藏師徒と
ゆきまは

三蔵師徒と

者と俱に門裡へ前へ入々々々老者曰く我家の佛堂も齋堂も
有とも且経堂も請候んとて遂に四個を経堂も導引入大
家座定つて後老者三藏が未歴を訪問する三藏答て東土大
唐より西方靈山も到りて佛を拜し経を求るの由と説話々々
老者大り小權喜て曰く這地の銅臺府中より地靈縣と号し延
ろう茅子の姓の寇名供守の大寛齡今六十四歳這地の人都
て茅子を呼で寇員外と稱を茅子四十歳の時より萬僧小
斎と施さん其を誓ひ今年に到りて二十四年遂小九千九百
九十六僧の斎と供へ今四僧を得て満願を做處小今日僥倖天
より四位の老師を降しめい萬僧の教小圓滿を万望の老師輩
爰に幾日を住りて茅子が心願を満り多入況や是より靈山中を

た僅小八百里圓滿の後小於て茅子鞍馬を備て老師を送り
城を出し奉らん三藏是を聞て拜謝し給ひく時員外が
老婆堂小出師徒四衆小相見の少時有て亦兩個の秀才
堂小登り三藏小對ひて拜し々々二藏も急ぎ答禮し々々
と員外住めて曰く是の我兩個の小兒小て寇梁寇棟と号ま
者より他們老師の降臨を聞特に来りて拜を做那ぞ答禮
小及び候はんや兩個の秀才當下父小向ひて問て曰く這老
長老那國より来りしぞ員外笑て曰く未路甚遠し南
瞻部伽東土大唐皇帝の旨を領し靈山小登り佛爺を拜し
経を求めり長老より二秀才曰く我曾て事林廣記を讀み天
下の唯四六部あり我這地の西牛賀芻の中也思ふ南瞻

部刃より爰に到るに不知其女の年代と歴ありて三藏
 曰く貧僧路に有て若子の毒鹿狼怪に出遇千萬の辛苦を
 掌故に住る日爰に去日如く十四篇の寒暑を歴方て這寶
 國に到るころ寇梁兄弟是を聞て神僧々と嘆息し母子俱
 小退死々員外亦四衆を齋堂に導引旦一齋小齋を備め懇
 懇小管待爰日師徒と住めたるふぞ三藏他が誠心を感得没
 奈何這家小滞留し不期五七日を過しぬ時員外本處の僧
 家二十餘個を請て三晝夜の佛事を做圓滿の道場と修行
 する程は是が為三藏亦五六日住めらば止々々が己小道場早
 して後三藏遂小員外小辞し路小出んとて人をも員外驚きて曰
 く老師長麼這般小急せ給へや這幾日佛堂小因て聞く爰

く長老小謝ん爰と台慢せり是を怪とて小非や三藏曰く
 深く尊府の盛教を蒙る何と以て此恩を報んとて然るを亦
 那ぞ別小怪む事有んや唯前年貧僧唐王小別り時恨も
 二年に歸べしと云ふ今已小十四般の霜雪を經る経を求
 るも未の有無を知り歸ふ及んで亦十二三紀を歴べし是聖旨
 小違ふの罪大いなるに有げや万望の員外典て貧僧を去し給
 へらば住るに増る功德うん八戒身邊に在て是を聞堪吃て上
 前出て曰く師父も甚人情小疎し老員外の富饒の大家万僧
 齋の誓いと候今既小圓滿し亦况や誠心小住め假令半星一
 住るとも亦一向小苦からず這般の好人の齋を食せば只管路
 小出人家の門小立半碗一鉢の冷飯を好めると何事ぞや三藏

齋て曰く「你這獸子唯齋を吃事の事を知て却て經と求るの遅
 さを顧みよ。你輩都て初て人と成の畜生唯安樂にのち食せん
 事を要む。你們既小爰と去事を願む。然ハ明日より我一個靈
 山小登るる。你輩何年下ても爰小在て樂むべし。行者師父の
 怒りつと看て八戒を扯退け獸子無益の口を聞き都て我輩よ
 く師父小怪しむるやと。言つと。ととと。八戒忿忿つる光景ふく
 還小身と退れ獨何と。氣呼的居り員外則ち三藏小向ひ
 老師深く頰旁のみ。更勿止日強て今二日を住つし。人我明日
 幾個の親隣を請来し。唐報と備へて遠く送る。信ん。と只管
 勧め住めり。る處へ員外が老波安山来つて曰く「這幾日師父を
 住めり。ひひの都て皆員外の功德なり。老身も亦此二少の釘線錢

あると云望望の老師を幾日供養し老身が功德と做候ん。當下亦
 寇梁兄弟も出来つて更小幾日を住んと。三藏固く辞して敢
 て住つし。あつた寂梁母子大い小色を愛し我れ好意を以て住め侍
 小。這般小執性に去んと。我輩も亦再び無益此口を聞くと
 して遂小身を裏面て退き。るる。二藏甚心裡克更愛思ひ。るる。と
 も没奈何亦一日を滞留し翌日遂に辞し別ん。古又を告ぐ。員
 外果て許すの親隣を集ち盛宴を聞て餞別を做彩旗宝蓋
 を列ね報手樂人を呼唐僧四衆を送る。路小出報樂天小喧嘈
 々々。旗幡日を蔽ひ看的の男女街上に充滿。都て寇員外が富
 貴を羨ま。るる。員外既小城門外に出十里小至つて亦一席の素筵
 を設け方般と音待。遂小別て飯。るる。二藏を懇切と拜辞し員



會不西存巴口馬



夜負外
三藏
師徒
とある

終本西遊記口録

外の外方方別別を西西向向ひて只只官官急急ぎまひつら亦亦四四五五十里里徑徑る天色天色
既既小小晚晚る色色ハ八八戒戒備備と努努力力着着て好好人人の茶茶飯飯と吃吃む安安樂樂の家家小小住住
只只音音路路小小急急ぎ出出日日暮暮に到到むとも宿宿べた家家もろく况况や亦亦西西
を降降んと此此一一夜夜を怎怎度度せんや三三藏藏罵罵つて日日く薛薛畜畜さる我我を
死死恐恐ろや常常言言めも長長安安好好と雖雖も久久く意意の家家小小非非と云云我我們們
果果て徑徑を求求め得得む大唐大唐へ歸歸つると白白玉玉帝帝に奏奏し御御厨厨の酒酒飯飯を依依
が心心の俵俵小小吃吃しめ你你が肚肚を張張破破つと十十個個の飽飽鬼鬼と做做つむ人人
戒戒是是を聞聞て不不期期吸吸々と打打笑笑ひ頭頭を低低て居居ろろろ行行者者則則ち四四
方方を望望む大路大路の一一邊邊小小一一固固の廟廟宇宇有有を看看着着師師父父旦旦那那里里に往往て
安安歇歇めんと個個々々路路を急急ぎ彼彼古古廟廟小小到到つ見見ば上上回回小小華華光光禪禪院院
の四字四字あり牆牆壁壁破破れ傾傾き倒倒れ蔓蔓草草地地小小遍遍く一一個個の踪踪跡跡も無無い

々々々々の急急ぎ立立出出んと為為處處小小忽忽ち大大雨雨降降下下ア々々々々を四四個個没没奈奈何何
彼彼廟廟中中に一一宿宿つらつらり

金金酬酬外外護護遭遭魔魔毒毒

聖聖顯顯幽幽魂魂救救本本原原

原原来来這這銅銅甘甘堂堂府府地地靈靈縣縣の間間小小許許妻妻の賊賊徒徒あり今今日日寇寇員員外外が唐唐
僧僧を送送る其其富富廉廉比比無無と看看て個個々々俄俄小小心心を操操く黨黨類類の群群偷偷三三
十十餘餘個個加加交交合合せ這這夜夜大大雨雨小小衆衆小小鎗鎗と提提刀刀を把把寇寇員員外外が家家の大門大門
と打打開開き二二斎斎小小推推入入々々々々の家家裡裡大大小小の男男女女方方の小小驚驚馬馬さ狼狼狽狽嘍嘍さ
盡盡く四四方方に散散て逃逃隠隠と員員外外老老丈丈婦婦の床床の下下に屈屈厝厝敢敢て色色を養養
る的的無無ア々々々々の偷偷賊賊們們許許妻妻の火火把把を揚揚點點し心心の俵俵小小家家裡裡を搜搜
く金金銀銀衣衣服服寶寶貝貝盡盡く奪奪取取既既小小去去んと為為處處を員員外外床床の底底下下り
兜兜出出て何何位位の大王大王万万望望の此此の衣衣服服と残残し住住ち我我輩輩が形形を掩掩

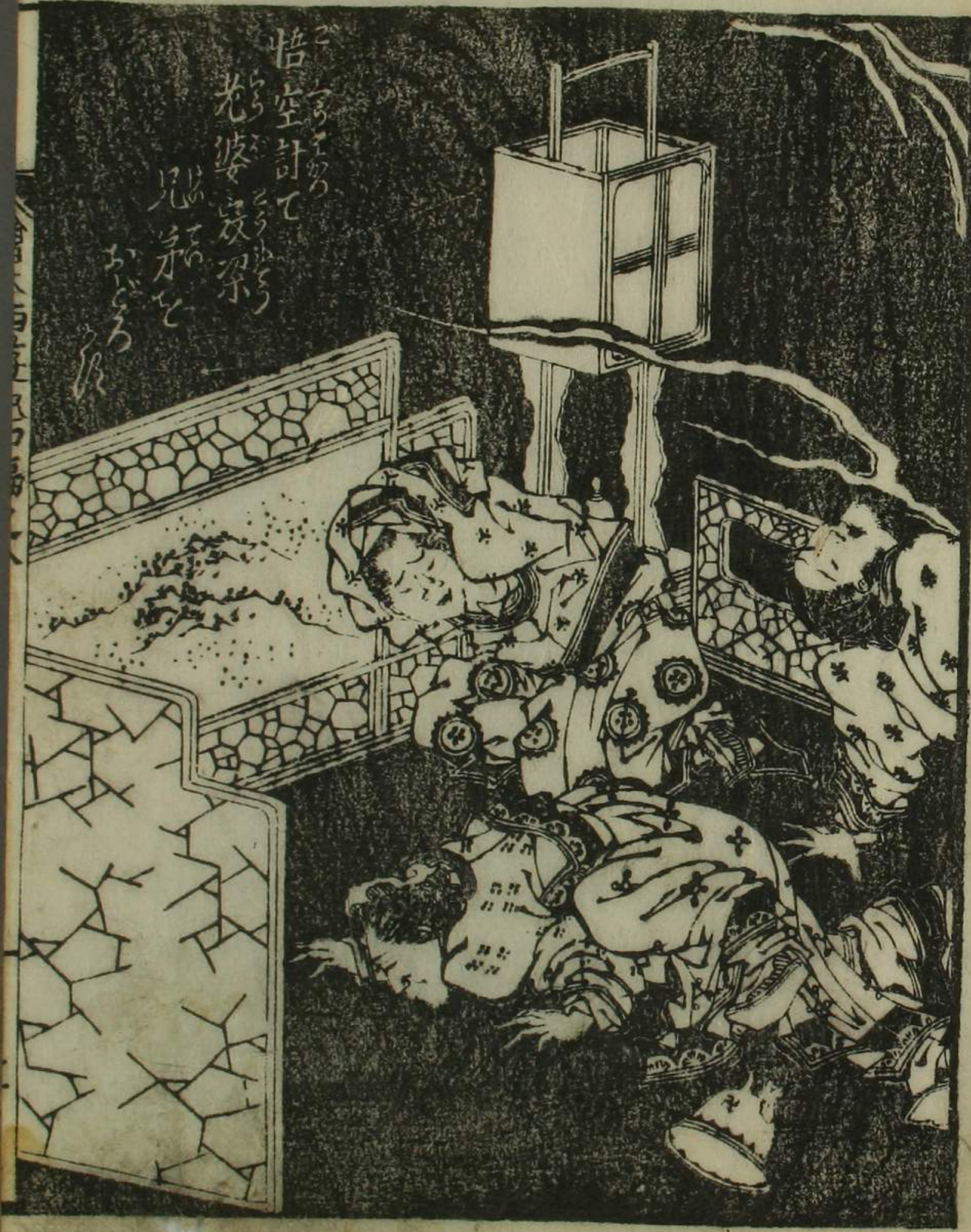


と本費盡し錢使用し迫りし俵は不期に宿員外が富田饒らう
に思ひ着昨宵他家が家へ推入金銀衣服宝貝を偷まると友へ
有て配分候處今亦長老輩の未だそのめを看て又買路錢と
要んまを欲しと不期神僧の大法力に偶斯の如く細縛らま今
一向は悔まらるる万望の神僧慈悲心を以て我輩を饒し人三
藏是を聞て驚て曰く冠員外一個の善人たるふ心度違災害
を得しあらん我輩已ふ他が厚情の恩を受今他們が偷まると
財宝金銀赤と取て員外が家へ送り返さば却て是二件の好
事らびや行者是を聞て理ありと同日偷賊們は向ひ你們作
宵偷取らる金銀衣服を獲らるる返さば你們が性命を饒とす
若是と否と遂に打殺さん偷賊ども打泣て曰く命は饒し給ら

を員外の家へ財宝の残るる返し奉り行者頓て八戒汝僧は
云て山の樹蔭なる宿員外が財宝金銀赤を盡く搬り出させ山
の如く馬小駄せ亦八戒の一担の金銀を擔せ沙僧も又一荷と連
死行者身を揺ひし毛を收むべ偷賊們が細の索も忽然とくと
消失らる偷賊ども不思議の細縛を脱し日怪と且惟喜跡と
看しと四散らる是ら二藏師徒亦東へ向ひ轉廻し員外が家
へ小社へ立出ぬ處へ忽ち許妻の人音とて百五十個餘の
官兵二騎小控と跑来し二藏師徒を取圍し何の仔細も言は
八戒汝僧と上首とて二藏行者も諸俱小搦捕府城を指てを飯
了らる二藏大い小搦馬に我輩に何等の罪ありと斯に御め給ふと
て哭給ふと行者言を初とて曰く師父憂ひぬま度らる是は儻小

逃ぐる倫賊を捉ん為の官兵あり然とも過ちて我輩を捉ふ我輩
 是と拒んで働るが真の人間に傷着へし不如是とする官府に社
 て詳ろふ説聞んゆいと云るゆぞ二藏是を聞て赤點頭官兵
 輩に領してきてはる不度時府城に飯を入らしむと銅臺府の刺史
 堂上小端重くと二藏師徒を廳前ゆ引出させ行李を聞せ見死
 小果而寇家の財宝盡く其裡に有るゆぞ刺史大に罵り
 曰く你寺和尚の東土大唐より西方靈山の登りて佛を拜し經
 を取と稱して却て人の財宝を奪ひ人の性命を傷ぐる何の理
 ぞや二藏曰く貧僧が輩一向ゆ是を知ど原末賊と做ぐる度
 も無と人を殺しする事の愈覚え候はば唯寇員外小別と
 より西に向ひて急ぎ候ゆ小不期も員外が家にへる倫賊ゆ出

過る原末員外小恩を蒙りて我輩を捉ふ徒等倫賊ども
 追散し財宝を盡く取返し員外小返し與んとて轉回し来り
 候ふ處小不期も官兵小腐らば遂小爰小到りて我々と
 其倫賊と為るゆ旦東土を出し時よる長路の関文を持来
 じり是證首と做づたる一固よりそ万望を大人詳ろゆ是を
 察しの人刺史是を聞て下官們小命ぶて二藏の関文を出
 させ點檢し給ふ小果而唐朝よるこの関文小て何々諸國王の
 宝印ありし刺史看早て謂ひ曰く這関文你輩が証見と爲
 づたゆ似たり然ども你輩已小倫賊を追散し財宝を取返した
 程の勢ひ有るゆら一個よりとも搦め取て証見小扯来るゆこと
 其事々財宝のと持来りゆら分辨奈何とも信難し且你



悟空計て
老婆寂深
思ふを
おぼろ



西遊記
第六

賊小教さしてつり善と做り善報と得べたを却て非命に死し
るの抑奈何なる事ろん不知前世小何等の罪と浩びるも憐
むべしと只管語つ居つろり行者是と遂一聞儻亦翹を
展て員外が家小飛去裡ふ入て看べ這家の尚許女の燈光を
照し老波安と寇梁兄弟三箇棺の前小香花を列ね西邊小座
して哭居つし行者則ち棺の上に飛行悄々小住つし三色の咳嚔を
做つるの母子三箇大い小驚き寇梁兄弟の下に打伏戦兢怕る
老波安却て大胆ふし老員外獲生のひらや志摩王巴を做
らふぞと云々此の行者寇員外が色と似て曰く我曾て活は我の
閻王の命を受你们と責小来つる你穿針見息生誠つと設
て罪つた人と害つらや老波安他が小名と呼つらと聞怕しと驚き跪

下て巨く老員外我輩己小這老年ろつに却て小名と呼び
ふ我那を説つ人と害し保んや行者曰く彼唐僧四衆誰が命
と害し誰が財宝を偷つるぞ彼偷夫の三十個餘つる夏に你
們も是程の夏の瘴着る成べ却て四個の聖僧の路頭めて偷
賊を捉て財宝を奪ひ返す我家小送返さんと来つらふを却て
你等府堂小訴へ聖僧を牢中に困苦しむ是説つて罪つた人
と害つらふ有らばや這故小閻王大い小怒せぬ今より你们三
個を冥府小送引来しつと我今閻王の命を受て你们と迎
へ小来しつるろり老波安を首め寇梁兄弟這夏を聞驚き悲し一向
小言語支能は女時揺ひて居つら

池清

繪本西遊記卷之八

金瓶梅西遊記

